

平成22年度 学校自己評価システムシート（県立南稜高等学校）

2月25日作成

目指す学校像	学力、体力、社会規範を身につけ、国際社会で自信と誇りを持って生きる若人を育成し、地域の信頼に応える学校づくりに努める
重点目標	1 授業の充実と総学習時間の拡大 2 基本的な生活習慣の定着、社会規範意識の醸成 3 一人ひとりの進路の充実と進路実現を通じた成長の最大化 4 家庭・地域とのコミュニケーション強化と、家庭教育との連携強化

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	11名
	事務局（教職員）	9名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価（1月27日現在）		
年度目標					年度評価（1月27日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習時間が少なく、学習習慣が確立していない生徒が多い 進学セミナー等の講座数は増えたが、参加者、継続率は不十分 授業公開の回数、講座数が増えた。その成果の組織的な活用を進める必要がある 行事の精選がされたが、日程の関係で、授業時数および連続して学習活動に集中できる期間が確保しにくい 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の授業改善の取り組み、新たな試みの状況 生徒の予習・復習を含めた学習習慣の確立と総学習時間 	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開、授業研究をさらに推進するとともに授業アンケートを活用し、授業改善を進める 「学習の手引き」等を有効活用し、学習方法の指導を行う 進学セミナーを計画的、組織的に運営する 学習習慣の確立に向け、宿題の出し方や家庭学習時間の確保等について、教科、学年、部活動顧問等の情報共有、連携を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開の講座数、参加状況、授業アンケート実施状況 生徒アンケート等の授業満足度 生徒アンケート等の家庭学習時間 進学セミナー等の実施状況、受講者数 	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開の時間数は増加した。授業アンケートについては、生徒アンケート（毎年実施）での授業に関する項目を充実させた 生徒アンケートの授業満足度は5%程度向上した 平日に家庭学習をしない生徒が7%減少したが、学習習慣のない生徒はまだ多い 進学セミナーは講座数、受講者数とも増加傾向 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善に関しては、生徒アンケートの要望等も勘案し、今後も継続的な取り組みが必要。授業公開週間等での教員どうしの学び合い等をさらに推進する 予習、復習をする生徒は少数にとどまる。次年度の1単位増（7時間目実施）を契機に家庭学習も含めた学習時間の増大、学習習慣の確立に取り組む
2	<ul style="list-style-type: none"> 部活動が盛んで、あいさつ等の基本的な生活習慣が確立している。 遅刻は減少傾向だが、2学期に急増。頻繁に遅刻する生徒がいる 昨年は女子用スラックスを導入。正しい制服着用が進んでいる。細部について改善の余地がある 7割近い生徒が自転車通学しており、自転車の安全運転について、さらに徹底が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 時間厳守の意識づけ 清潔感のある身だしなみ 自転車マナー、安全運転の取り組みに関する家庭や地域との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体で時間を守る意識を涵養し、時間を大切にしよう、組織的に取り組む 身だしなみ指導の情報を各学年で共有し、指導の徹底を図る 登校指導や交通安全指導について、保護者・関係機関・地域の協力を求め、連携を強化する 部活動や行事等の成果をホームページ等で取り上げ、賞賛、激励する 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻者数の推移 授業のチャイムtoチャイムの徹底状況 身だしなみの徹底状況 自転車登下校の安全徹底のための取り組み状況と事故件数 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻者数は2割以上減少 時間を守る意識も向上している 制服の着用状況、頭髪、化粧など改善傾向 自転車の安全の呼びかけ、地域との連携は強化されたが、事故件数は増えた（軽微なものまで事故報告を徹底した） 登校指導の強化（月例の指導日以外の実施）等が見られた 	B	<ul style="list-style-type: none"> 前年より減少したものの遅刻者は決して少なくない。学年進行での増加、2学期からの増加傾向が顕著。全体平均を1年生の1学期の水準に近づけられるよう継続的に取り組む 自転車事故の根絶を目指し、傘差し運転の禁止（雨合羽着用）を含め、指導の徹底を図っていく 身だしなみ指導もさらなる改善を目指して継続
3	<ul style="list-style-type: none"> 過去最高の88%が現役で進学した。専門学校が増えた 大学、短大は、指定校推薦、一般推薦、AO入試が多く、センター試験や一般入試が少なく、国公立大や私立上位校への挑戦が少ない 就職者数は減っている。毎年、大手企業に就職者を出している 生徒アンケートでは、進路行事等への取り組みの姿勢が不十分 学力上位層を伸ばす取り組みが遅れている 	<ul style="list-style-type: none"> 進路学習の取り組み、進路目標の決定状況 センター試験、一般入試の受験状況 上位校の受験状況 	<ul style="list-style-type: none"> 進路に関する情報共有や議論を活性化させる 浪人経験者や就職者を含む多様な卒業生の進路体験を活用する 保護者に対する進路情報の提供を、内容、頻度とも拡充する 先進校の取り組みを視察・研究して、学力向上・進路の充実にかかす 学力上位層を伸ばせるような新教育課程編成を進め、一般入試・センター入試にチャレンジできるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導、行事等の内容、参加状況 進路、志望校の決定時期 センター試験志願者数 新たな学力向上策の実施状況 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導の取り組みについては、進路部による情報提供や行事内容の拡充、1、2年生での模試の実施など学年での取り組みも強化された センター試験志願率は、4%増加。実受験者も増えた AOや推薦も含め、中堅・上位校の受験も増加傾向 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に加え保護者にも進路情報や進路を考える機会の提供を拡充し、就職も含めた進路選択についての学びを促進する 25年度以降の新教育課程を、今年度決定した方針に沿って、多様な進路ニーズ対応できるように編成する 進路希望の決定時期の早期化については、評価指標から撤回する。早い時期から進路について考えるよう意識付けは行うが、決定を急がせることはしない
4	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の学校に対する満足度が高い 入試倍率が高い 家庭・地域への情報発信が弱い 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への情報発信状況 地域からの要望や近隣との関係 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの改善・更新により情報発信を強化する メールシステムへの保護者の登録を進め、連絡体制を強化する 学校評議員会・評価懇話会の意見を学校運営に迅速に反映させる 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者へのタイムリーな情報提供の状況（学校ホームページや配布文書等） 学校評議員会・評価懇話会の要望等の学校経営への反映状況 保護者アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> 学校から発信する情報量は確実に増えた（配布文書、冊子、HP、メール） アンケートでの保護者の満足度は微増 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、保護者、学校関係者の意見を収集し学校経営に反映させる機能を強化する

学校関係者評価	
実施日	平成23年2月1日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 教科ごとの研修会等により、授業の質を高め、授業満足度を高める努力を期待したい。 平日の家庭学習時間が少ない。 他の学校の授業を見る、保護者に授業を見てもらおう等により授業の質の向上を図るべき。 	
<ul style="list-style-type: none"> 自転車の乗り方指導は、学校と関係機関との連携強化が必要。 交通事故の内容、原因の検証を。 遅刻は社会で認められない、良くないことという意識づけの徹底を。 アルバイトが家庭学習時間の少なさや遅刻につながるのでは。 	
<ul style="list-style-type: none"> 男女によって進学に差が見られる。 時間がかかるが、全体として学力向上の方向に持っていく必要があるのでは。 意欲ある生徒に対し、クラス編成などの工夫を取り入れてみたらどうか。 進路情報がまだ十分でないのでは。予備校や専門家から提供の機会を増やしてみてもいい。 	
<ul style="list-style-type: none"> 中学生がHPを見て志望した。 情報公開手段として活用して欲しい。 清掃活動等、地域貢献を広げて欲しい。 学校HPの保護者のページの充実を図っていきたい。 	

